



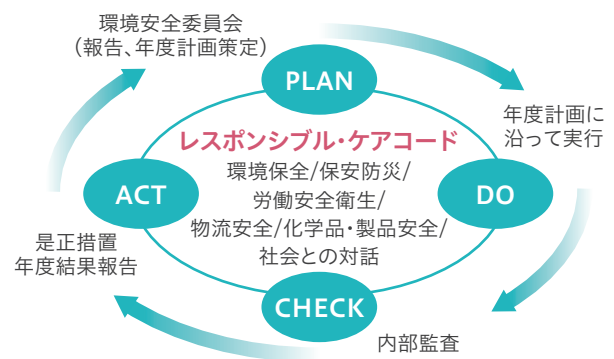
当社グループは、化学物質を取り扱う企業として社会に対し大きな責任を負っています。その責務を果たすべく、化学品の開発から製造、物流、使用、最終消費を経て廃棄・リサイクルに至るすべての過程において、自主的に「環境・健康・安全」を確保し、活動の成果を公表して社会との対話・コミュニケーションを行うレスポンシブル・ケア（RC）活動に取り組んでいます。

レスポンシブル・ケアマネジメント

体制

1992年よりRC活動を開始し、策定したRC中期計画（2022-2027）を達成するため、全社にISO14001*を基本としたRCマネジメントシステムにて、PDCA（Plan, Do, Check, Act）による目標管理、継続的改善を行っています。また、RC活動を推進する組織として環境安全・品質保証部担当役員を委員長とする環境安全委員会を年1回定期的に開催しており、次年度の目標など討議の内容は経営会議に報告されたのち、承認を経て、取締役会で決議されます。

* 環境マネジメントシステムの国際規格、全工場でISO14001の第三者認証を取得



RC 監査

RC 監査とは、RC 監査規程に基づき、環境安全・品質保証部が、工場、研究所、関係会社でのRC活動を点検する活動です。各箇所が行う内部監査やパトロールに加え、各箇所のRC活動が適切に実施され、PDCAサイクルが着実に回っているか、また環境・健康・安全に関わるコンプライアンスに関してチェックをしています。環境安全・品質保証部は、RC 監査プログラムを策定し、環境・健康・安全に関わる顕在化したリスク、または潜在的なリスクに対して改善を促しています。

2024年度は工場、研究所、オフィス、関係会社などに対して24回のRC 監査を実施しました。

詳細は、当社Webサイトをご覧ください
[Web](#) レスポンシブル・ケアマネジメント



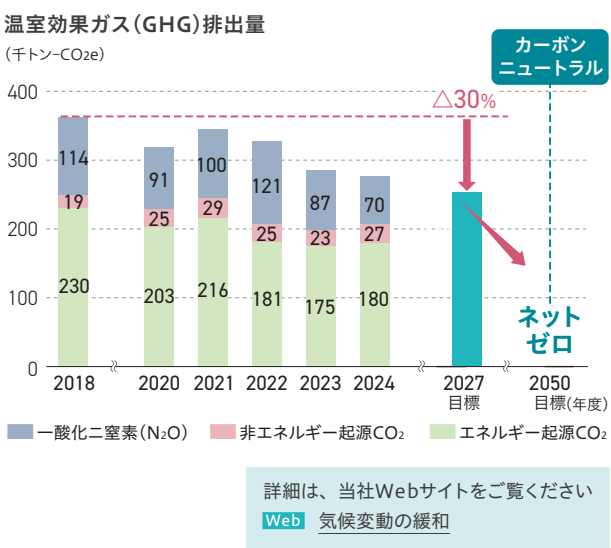
レスポンシブル・ケア®

気候変動の緩和・環境保全

温室効果ガス排出量削減に向けた取り組み

当社は、温室効果ガス（GHG）の排出削減をはじめとする環境保全に積極的に努めており、省エネ、燃料転換などの気候変動の緩和に向けた取り組みを進めてきました。当社のGHG排出量削減（Scope1+2）については、2050年カーボンニュートラルを目指し、「GHG排出量：2018年度比30%以上削減」という2027年度目標を設定しています。

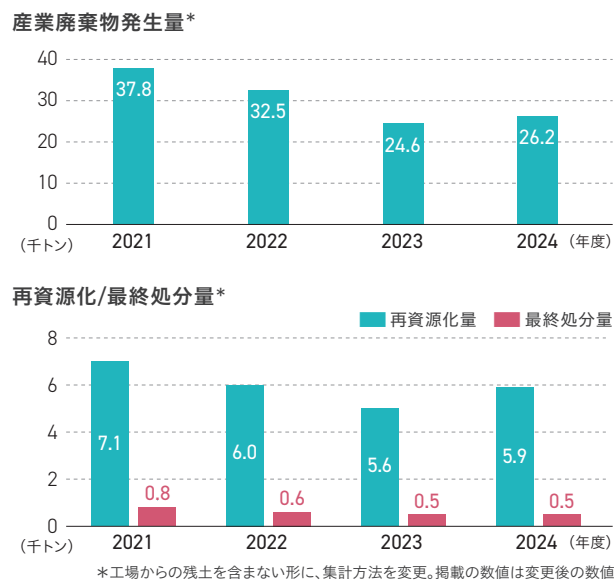
2024年度のGHG排出量は278千トンとなり、2023年度の285千トンから減少しました。



産業廃棄物排出削減の取り組み

当社では、レスポンシブル・ケア活動を通じて、3R（リデュース、リユース、リサイクル）を一層推進し、産業廃棄物の排出削減に努めると同時に、廃棄物の処分が適正に行われるよう管理を徹底しています。2024年度の産業廃棄物発生量は、2023年度よりも増加したものの過去5年間で2番目に少ない量となりました。最終処分量については、新たに「2021年度比50%以上削減」という2027年度目標を設定しました。2024年度最終処分量は494トンとなり、2021年度に対して40%の削減となりました。

プラスチック使用製品産業廃棄物等はプラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律の施行（2022年4月1日）



に伴い、2021年度から集計を開始しました。2024年度のプラスチック使用製品産業廃棄物等量は2023年度よりも微増となりましたが、工場、研究所での再資源化などの努力により再資源化等率が57%へ向上し、「50%」という2027年度目標を3年連続で達成しました。今後も再資源化等への取り組みを進めます。

	プラスチック使用製品 産業廃棄物等量	再資源化等率
2022 年度	830t	55%
2023 年度	592t	53%
2024 年度	656t	57%

詳細は、当社Webサイトをご覧ください
[Web](#) 産業廃棄物・汚染物質の排出削減

生物多様性保全の取り組み

当社は、「社会が求める価値を提供し、地球環境の保護、人類の生存と発展に貢献する」という企業理念のもと、地球環境の保全に寄与するため、生物多様性に配慮した事業活動を展開しています。「本体工場におけるビオトープの設置・運営」を2027年度目標として設定し、生物多様性の取り組みを推進しています。2024年度は、名古屋工場に新たにビオガーデンが完成しました。この施設は名古屋工場の正面玄関前に設置されており、昆虫や鳥、魚や植物が生息し、自然と共生できる場所となっています。

ガーデンには、昔から植えられていたソメイヨシノに加え、スミレ、レモン、バラ科のシモツケなどのさまざまな植物が、ビオトープには睡蓮、アナカリス、ミナミメダカ、ヤ



ビオガーデン(名古屋工場)

リタナゴ、ヤマトヌマエビ、ヒメタニシなどの水生植物・生物が仲間入りしました。

ビオガーデンは歩道に面していることもあり、社員だけではなく、通行人など多くの方々に四季折々の移り変わりを楽しんでもらっています。

詳細は、当社Webサイトをご覧ください
[Web](#) 水資源の保全
[Web](#) 生物多様性への取り組み

保安防災

当社は安全確保と安定操業、保安力向上を目標に、製造事前評価によるリスクの洗い出し、プロセスKY（危険予知）、設備KYを実施しています。その結果、2024年度は爆発や火災は発生しませんでした。1件の化学物質の放出がありました。化学品の製造過程において、排ガスの流通不良により系内の圧力が上昇し、安全弁から三酸化硫黄のガスが放出されたものです。この件での人的被害・物的被害はなく、環境への影響もありませんでした。このような事故を二度と発生させないように、再発防止策を徹底し、さらに全箇所へ対策を展開しています。また、工場、研究所ならびに関係会社では、地震防災訓練などの各種訓練を毎年実施し、緊急時あるいは事故発生時に迅速かつ確実な対応を取れるように備えています。



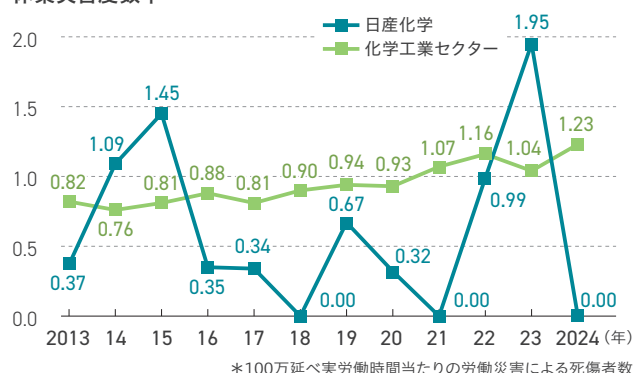
防災訓練(富山工場)

労働安全衛生の推進

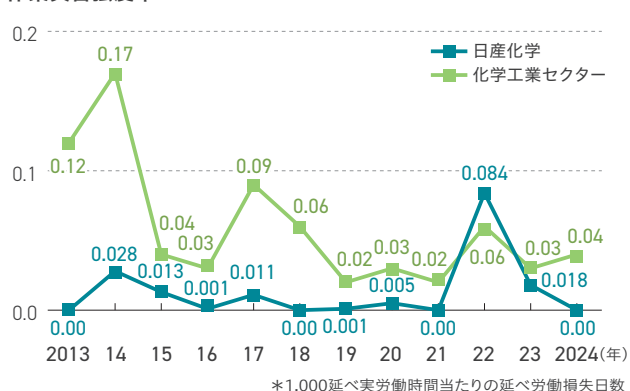
当社は、RCマネジメントシステムを通じて、労働災害の防止、労働者の健康増進、快適な職場環境の形成に努め、各事業所の安全衛生レベルの向上を図っています。また、安全確保と安定操業、保安力向上を目指し、各種訓練を毎年実施し、緊急時あるいは事故発生時に確実な対応が取れるように備えています。

2024年は当社の工場・研究所において休業災害が発生しなかったため、度数率・強度率ともにゼロとなりました。労働災害対策キャンペーンなどの施策が効果を上げた結果です。今後もリスクアセスメント、作業前KYやKYトレーニング、HHK（ヒヤリ・ハット・キガカリ）活動、5S（整理・整頓・清掃・清潔・躰）などの安全活動や適切な保護具の着用を推進し、安全常会や労働安全新聞などにより安全に対する意識を向上することで、安全文化の醸成、労働災害ゼロを目指します。

休業災害度数率*



休業災害強度率*



詳細は、当社Webサイトをご覧ください

[Web](#) 保安防災・労働安全衛生の推進

化学物質の管理・製品安全

化学物質の管理については、2020年に化学物質管理方針を策定し、化学品の安全性とプロダクトステewardシップの継続的改善を推進してきました。

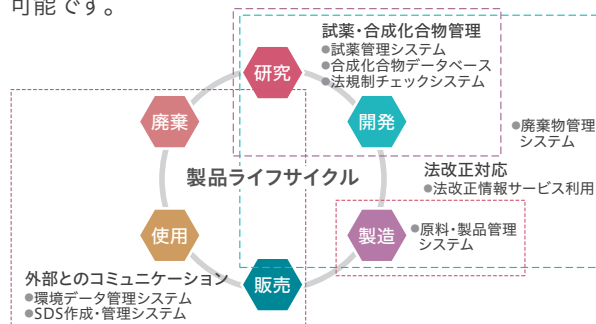
製品ライフサイクルにおけるリスク評価

化学製品の研究開発、製造、販売、変更などに至る各段階で、リスク評価（事前評価）を実施しています。法規制情報、自社または外部試験機関で取得したデータ、原料のSDS（安全データシート）、文献などの安全性試験データのほか、物理化学的性質、作業環境条件などが基礎となります。リスク評価結果に基づき、法規制遵守対応、製造現場での作業者ばく露低減のための設備改良、作業方法の改善、手順の明確化、文書化や教育訓練などの適切な対策を講じています。また、これらのリスク評価結果は、社内の全関係者に周知されます。

その他、日本化学工業協会（JCIA）が推進する「化学物質が人の健康や環境に及ぼす影響に関する研究を長期的に支援する国際的な取り組み」であるLong-range Research Initiativeにも参画し、人の健康や環境へのリスク評価に関する研究の進展に向けた活動を行っています。

製品安全情報の発信

製品の安全性に関する情報をお客様に確実にお伝えするため、SDS作成支援システムを導入し、統一されたルールに基づき全製品のSDSを作成・配布しています。農業においては、全製品のSDSをホームページで公開しており、お客様や使用者様にダウンロードしていただくことが可能です。



詳細は、当社Webサイトをご覧ください

[Web](#) 化学物質の管理